

安寿と厨子王祭

開催時期 5月3日

会場 金山集会所 グラウンド



金山町には、明治44年(1911)に鏡丘由来記としてまとめた古文書を基にした安寿と厨子王あんじゅ すしおうにまつわる物語が伝えられています。

鏡丘由来記によると、発端は長和5年(1016)、小名浜住吉の住吉御所に住んでいた平政道が桜の名所に行った帰り、逆臣に現在の金山町の姥ヶ丘で殺害されたことから始まります。政道の子には万珠、千勝の姉弟がいましたが、母とともに住吉御所を出て、諸国をさまよっているうちに親子は離れ離れになってしまいました。姉は越前国で死亡しましたが、弟は京で養子となって治安3年(1023)、18歳になったとき、岩城政隆いわき まさたか(時代的に歴史上の人物としては登場しない)と改名しました。その後、逆臣討伐が許され、奥州で逆臣を討ち取り、長年の宿願を果たしました。政隆は父の霊を慰めるため、今の金山町南の丘に舞台を張って、家臣をねぎらったということです。

金山町では、この伝説を基に、昭和48年(1973)2月、「安寿と厨子王丸遺跡顕彰会」を発足させ、「安寿姫・厨司王の母子像」のブロンズ像を建立、さらに平成11年(1999)10月に「金山の昔を伝える会」を発足させました。平成14年(2002)からは「安寿と厨子王祭」が毎年5月に催され、安寿姫や厨子王丸に扮した地区民が神輿とともに区内を練り歩き、母子の物語を通じた家族愛を語り継いでいます。

お問合せ

金山自治会

TEL : 0246 - 63 - 2603

住所 : 福島県いわき市金山町朝日台

会場



福島県いわき市金山町朝日台

